

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果の公表について

平戸市教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 教科に関する調査

(1) 調査対象：小学校第6学年の児童（国語・算数）

中学校第3学年の生徒（国語・数学）

(2) 調査問題：以下の①と②を一体的に問う。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(3) 出題形式：国語・算数・数学では、記述式の問題を一定割合で導入する。

3 質問紙調査

(1) 調査対象：小学校第6学年の児童及び中学校第3学年の生徒

(2) 調査内容

児童・生徒に関する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査日

令和6年4月18日（木）

5 平戸市の調査実施校・児童生徒数

小学校 239(15校) 中学校 237人(8校) 計476人(23校)

Ⅱ 平戸市の結果の概要

1 平均正答率の全国との比較

令和6年度

校種	小学校			中学校		
教科	国語	算数	理科	国語	数学	理科/英語
結果 (本市)						
結果 (全国)	67.7	63.4		58.1	52.5	

※結果（本市）の平均正答率は、全国平均正答率以上の場合、「+」を表示。

<結果の総括>

小・中学校ともに、全国平均を超える教科はなかった。

小学校では、

国語では「知識及び技能」の中の「情報の扱い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」、
算数では「数と計算」と「変化と関係」、

中学校では、

国語では「知識及び技能」の中の「情報の扱い方に関する事項」と「思考力、判断力、表現力等」の中の「話すこと・聞くこと」、
数学では「数と式」と「データの活用」

において、全国平均を大きく下回っている。

2 各教科の状況

【小学校】

教科	全国の平均との比較 ○…+5.0以上 ●…-5.0以下
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討する。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。（投げる） ●目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う。 ●文の中における主語と述語との関係を捉える。 ●人物像を具体的に想像する。 ●日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付く。

算 数	<ul style="list-style-type: none"> ●問題場面の数量の関係を捉え、式に表す。 ●除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解している。 ●球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す。 ●除数が小数である場合の除法の計算をする。 ●速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する。 ●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する。 ●速さの意味について理解している。 ●示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する。
-----	---

【中学校】

教 科	全国の平均との比較	○…+3.0以上	●…-5.0以下
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ●必要に応じて質問しながら話の内容を捉える。 ●資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話す。 ●意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 ●目的に応じて必要な情報に着目して要約する。 ●文の成分の順序や照応について理解している。 		
教 科	全国の平均との比較	○…+3.0以上	●…-10.0以下
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ●連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表す。 ●等式を目的に応じて変形する。 ●一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解している。 ●簡単な場合について、確率を求める。 ●目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する。 ●与えられたデータから最頻値を求める。 ●複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較する。 ●グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈する。 ●筋道を立てて考え、証明する。 		

3 児童・生徒質問紙による児童・生徒の特徴（全国比較○：+3.0以上 ●：-5.0以下）

【児童】

- 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができる。
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる。

- 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。
- 国語の勉強は好きだ。
- 算数の勉強は好きだ。
- 理科の勉強は好きだ。
- 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがある。
- 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。
- 英語の授業の内容はよく分かる。
- 算数の解答時間は十分だった。

【生徒】

- 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
- 普段（月曜日から金曜日）の、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）の1日当たりの時間。
- 普段（月曜日から金曜日）の、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などの1日当たりの時間。
- 将来の夢や目標を持っている。
- 人が困っているときは、進んで助けている。
- 授業で、PC・タブレットなどのICT機器を使用した。
- 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、楽しみながら学習を進めることができる。
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
- 国語の勉強は大切だ。
- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- 授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思う。
- 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。
- 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい。
- 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。
- 授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている。
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。

- 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる。
- 数学の授業の内容はよく分かる。
- 数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。
- 数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている。
- 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがある。
- 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。
- 授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思う。
- 数学の解答時間は十分だった。

Ⅲ 平戸市の今後の取組

- 1 各学校の調査結果及び市全体の調査結果の分析による課題の把握
※全国学力・学習状況調査、長崎県学力調査、平戸市学力調査
- 2 各学校で作成する『学力向上プラン』の内容の精査及び実践に対する指導助言
- 3 各種研修会(管理職研修会、教務主任研修会、研究主任研修会等)における学力向上に関する指導助言
- 4 ICT機器を効果的に活用した授業改善のための研修会の実施
- 5 平戸市学力向上会議の開催とそれを受けての各学校への指導